共通病歴の産科サマリー，新生児サマリーによる死亡調査

高知医科大学産婦人科
武　田　佳　彦

周産期死亡の要因解析には単に臨床死因，あるいは病理死因など直接死因を検討するのみでは不充分で妊娠，分娩，新生児期を一貫して調査し，異常の重なりを解析することが必要である。そこで日産婦周産期管理登録委員会で作成した分娩サマリー，新生児サマリーを用いて周産期死亡の要因別集計を行った。

調　査　方　法

研究分担者，研究協力者の各施設での周産期死亡調査を産科的要因，新生児要因を含めて行い，疾患名はＩＣＤ分類に準じて記載した。集計は高知医科大学で作成した病歴データーベースにオンライン入力を行い，ＩＢＭ４３３１を利用して電算処理を行った。このような処理方式により，次年度を加えた統計的解析が可能となった。本年度の調査数は，１０６例であり，死産例では新生児サマリーに死因を，新生児死亡例では施設の特徴にもよるが出来る限り産科要因についても記載した。

なお本年度は例数が少ないため単純集計に止め，高次統計処理は次年度に一括して行うこととした。

調　査　成　績

主要臨床死因別死亡数の解析

死亡時期は分娩前死亡３９例，分娩中死亡１６例，新生児死亡５１例で出生前死亡51.9％，出生後死亡48.2％でほぼ同数であった。

全期間を通じて奇形による死亡頻度が高く１７例，１６％を占め，胎児死亡と新生児死亡が相半ばした。

胎児死亡では分娩前死亡が分娩中死亡の約２倍で分娩前の胎児管理の重要性が示唆された。分娩前死亡では妊娠中毒症について，脱出，下垂を含む臍帯異常の頻度が高く，早産，前期破水との関連がうかがわれた。

分娩中死亡では胎児低酸素症，常位胎盤早期剥離の頻度が高く，急性胎児仮死による死亡頻度が高い。新生児死亡では肺硝子膜症，頭蓋内出血，感染などの頻度が高く低出生体重児ことに極小未熟児との関連性が示唆された。

児の状態による解析

児の状態を浸軟児，それ以外の胎内死亡，分娩中死亡，産科的適応による中絶児，早産児，ならびに奇形児に分類して，母体年令，初経産別，児の性別，死亡時期，妊娠期間，体重区分などとの関連を見た。

分娩前死亡では浸軟児の頻度が高く，妊娠２８～３６週の死亡が多い。これに対して分娩中死亡は妊娠２８週未満で体重１０００g未満に圧倒的に多いのが特徴で超未熟児の分娩対策の緊急性が指摘される。

奇形児では無脳児，水頭症，脊髄破裂などの神経管異常，ＡＳＤ，ＶＳＤ，肺動脈閉鎖，左心形成不全などの心奇形が高頻度であった。これらの奇形と母体年令には関連性は認められないが，ダウン症候群の１例は母体年令３５才以上であった。また神経管異常は低出生体重児に頻度が高いが，心奇形はむしろ成熟児に高頻度であった。

死亡児の合併症の解析

児自身の合併症は必然的に新生児死亡例で明確となるが，新生児異常では新生児仮死，ＩＲＤＳ，脳出血など呼吸障害の頻度が高い。新生児仮死でも生後１日以降の死亡が多いことが注目され，同時に呼吸管理の副損傷と考えられる気胸，肺気腫の頻度も高い。体重区分では胎児，新生児仮死を除いて低出生体重児に圧倒的に多い。

頭蓋内出血，脳内出血も低出生体重児ことに１０００g未満の超未熟児に多く，超未熟児管理上の問題点として注目される。

敗血症，肺炎，新生児ＤＩＣなどの感染症およびそれに関連する疾患群も低出生体重児に高頻度であった。

胎盤重量と体重区分

胎盤重量と体重区分５００ｇ毎に度数分布で示した。胎盤重量は体重増加に平行して増加しており，１０００ｇ未満では２００ｇ，２５００ｇ以上では，５００ｇの度数が高い。一方６００ｇ以上の胎盤重量をもつ症例の頻度も高く，このような異常胎盤は体重区分に関係なく，１０００ｇ未満の超未熟児にも６例に認められた。

総括ならびに結論

周産期死亡の要因は死亡時期により特徴があり，分娩前死亡は妊娠中毒症，前期破水，早産が高頻度で分娩前の死亡対策としてはこれら合併症の産科管理の改善が必要であろう。

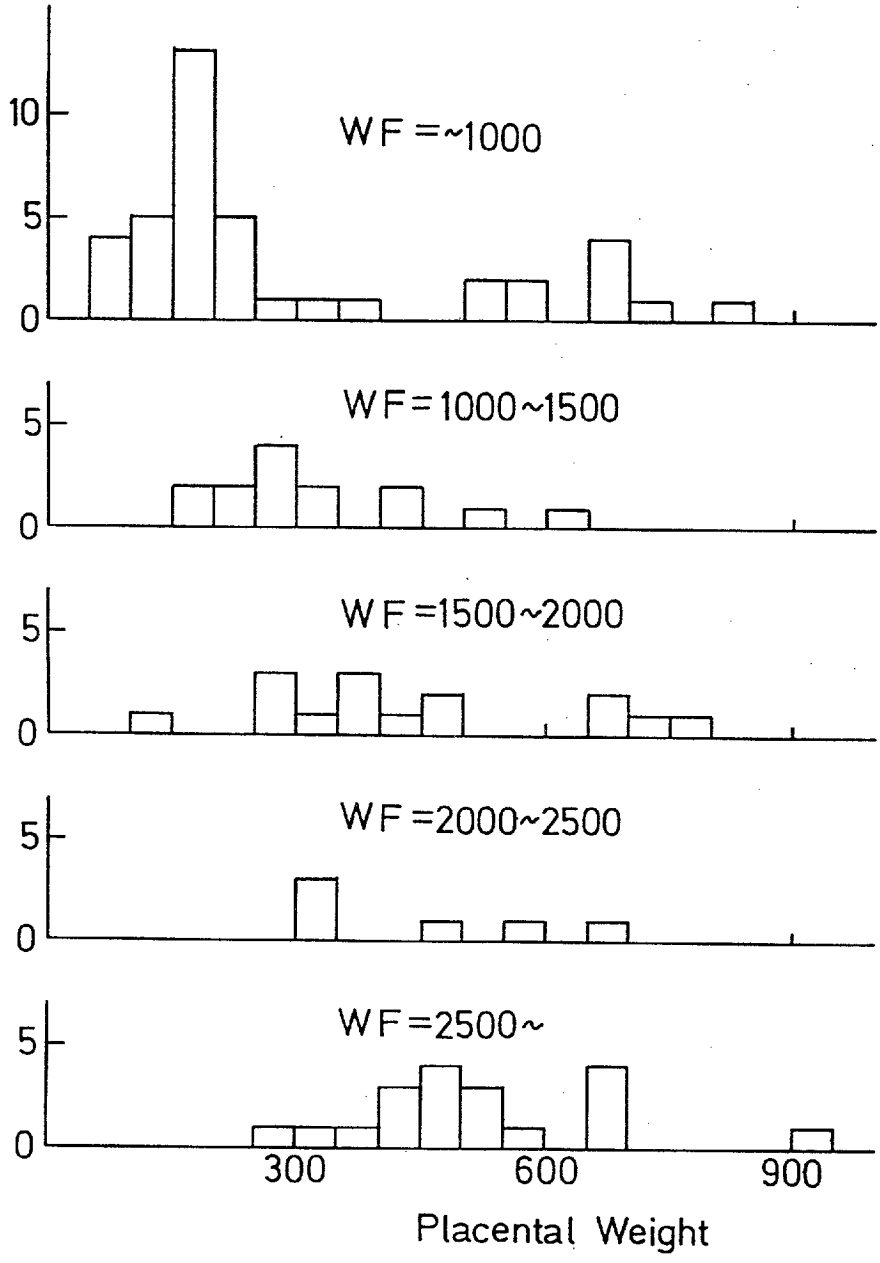
胎盤異常の症例については病態解明のためにも産科合併症との関連追求が必要である。

分娩中死亡では低出生体重児の急性低酸素症の頻度が増加しており，超未熟児に対する安全分娩対策が検討されなければならない。

新生児死亡でも低出生体重児ことに１０００ｇ前後の超未熟児，極小未熟児の死亡が圧倒的に多く，呼吸障害，頭蓋内出血，感染など，新生児適応障害に基く一連の疾患群の頻度が高い。未熟児の集中管理での合併症軽減対策が必要であろう。

疾病名	母体年令			母体経産別		死亡時期			新生児死亡		児の性別			妊娠時期				体重区分(出産体重)			出産体重と死亡時期					
																					～2500g			2500g～		
	～29	30～34	35～	初産	経産	分娩前	分娩中	分娩後	0日死亡	1日以降	男	女	不明	～28週	28～36	37～	不明	～1000	1000～2500	2500～	分娩前	分娩中	分娩後	分娩前	分娩中	分娩後
浸軟児	16	10		16	10	26			26		13	13		6	13	7		12	11	3	22	1		3		
胎内死亡	2			1	1	2			2		2			1				1								
分娩中死亡児	11	3	2	6	10		16		16		9	7		7	4	4		11	3	3		13			3	
中絶児	2		1	2	1		3		3		2	1		3				3			1	2				
早産児	25	11	1	13	22	4	7	34	19	26	24	21		24	12	1		21	24		4	7	34			
先天性水頭症	2	1			2	1		1	1	1	1	2				2			1	1				1		1
無脳症	3		2	2	3	2	3		5		2	3		1	1	3		1	4		2	3				
脊椎破裂	2			1	1	1	1		2		1	1		1		1		1	1		1	1				
先天性心奇形		1			1			1		1	1					1				1						1
A S D	2	1		1	2			2	2	1	2	1			1	2			1	2			1	1		1
V S D	2			1	1	1		1	1	1	1	1				2				2				1		1
肺動脈閉鎖	2			1	1	1		2		2	2					2				2						2
左心形成不全		1			1			1		1	1					1				1						1
総肺静脈環流異常								1		1	1									1						1
兎唇口蓋裂合併		1			1			1		1		1				1				1						1
口蓋裂	1			1				1		1		1				1				1						1
左腎欠損	1			1				1		1		1				1				1						1
耳介奇形	1			1				1		1		1				1				1						1
多指症	1	1			1			1		1		1				1				1						1
手足指異常	2			2		1		1	1	1		2		1		1		1		1	1					1
その他四肢奇形		2		1	1	1		1	1	1		2			2				2		1					
破皮症		1			1			1		1	1				1				1				1			
腹壁ヘルニア	1			1			1		1			1		1				1				1	1			
胎児水腫		1		1				1	1		1					1				1						1
ダウン症候群			1		1		1		1		1			1				1				1				
致死性小人症	1				1			1		1		1				1				1						1
多発奇形	1			1			1		1		1					1			1			1				

疾病名	母体年令(才)			母体経産別		死亡時期			新生児死亡		児の性別			妊娠時期(週)				体重区分(出産体重)			出産体重と死亡時期					
																					～2500g			2500g～		
	～29	30～34	35～	初産	経産	分娩前	分娩中	分娩後	0日死亡	1日以降	1	2	不明	～28	28～36	37～	不明	～1000	1000～2500	2500～	分娩前	分娩中	分娩後	分娩前	分娩中	分娩後
胎児仮死	6	3		5	2			8	5	3	4	4		4	1	3		3	2	3			5			3
新生児仮死	9	8	1	9	10			19	11	8	9	10		8	4	5		8	5	6			13			6
無気肺		2		1	1			2	1	1	1	1		2				2					2			
IRDS	18	4	1	10	14			27	8	19	14	13		12	10	1		12	14	1		1	25			1
呼吸頻数	1				1			1		1	1			1				1					1			
肺炎	3			2	1			4	1	3	2	2			3				4				4			
吸引症候群	1			1				1	1		1					1				1						1
間質性肺気腫								2	2		1	1						2					2			
全身ガス栓塞症								1	1		1							1					1			
肺出血	2			1				2		2	1	1		1	1			1	1				2			
気胸	4	2	1	2	6			10	1	8	3	7		3	5			4	7				10			
脳内出血	3		1	1	2			4	1	3	3	1		2		1		2	2				3			1
頭蓋内出血	2			2				4	2	1	3			2				3					3			
頭蓋骨陥没	1			1				1	1		1					1				1						1
電解質異常	1	1			2			2		2	2			1	1			1	1				2			
代謝性アシドーシス	1				1			2	1	1	2			1				1	1				2			
低血糖症	2	1		2	1			4	1	3	2	2		1	2			1	3				4			
低体温症候群	1			1				1	1			1		1				1					1			
高ビ血症	1				2			2		2	1	1		1	1			1	1				2			
腸穿孔	1			1				1		1		1			1				1				1			
腸回転異常	1			1				1		1		1				1				1						1
肝膿症	1			1				1		1		1			1				1				1			
敗血症	3			2	2			6		6	2	4		2	2			2	4				6			
敗血症の疑い	1	1			2			2	1	1	2				2				2				2			
新生児DIC	1			1				1		1		1			1				1				1			
腹水		1		1				1	1		1					1				1						1
胸水		1		1				1	1		1					1				1						1
急性尿細管壊	1			1				1		1		1			1				1				1			
新生児肝腫大		1		1				1	1		1					1				1						1
心機能不全		1			1			1		1	1				1				1				1			
PDA	2			2				2		2	1	1				2				2						2


10
5
0
WF =~1000
5
0
WF=1000~1500
5
0
WF =1500~2000
5
0
WF =2000~2500
5
0
WF=2500~
300
600
900
Placental Weight

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

周産期死亡の要因解析には単に臨床死因,あるいは病理死因など直接死因を検討するのみでは不充分で妊娠,分娩,新生児期を一貫して調査し,異常の重なりを解析することが必要である。そこで日産婦周産期管理登録委員会で作成した分娩サマリー,新生児サマリーを用いて周産期死亡の要因別集計を行った。